

事業名 “オール近大”川俣町発・復興人材育成プロジェクト

採択大学等名

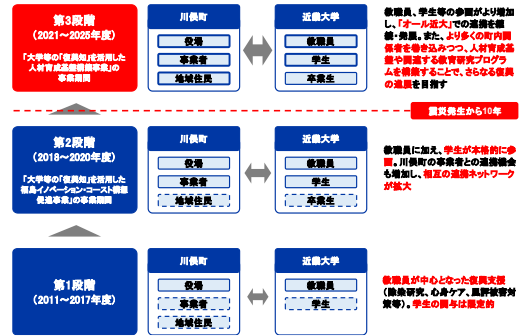
近畿大学

連携市町村名

川俣町

取組概要(目的)

- 川俣町とのこれまでの連携蓄積をもとに、総合大学としての研究力・教育力・発信力を活かしつつ、近畿大学の総力を挙げて、“オール近大”で事業を実施する。
- 5つの重点分野（A：農業・食、B：原子力・除染・リスクコミュニケーション、C：観光、D：集落復興・コミュニティ再生、E：SDGs）を設定し、川俣町を拠点に、学生、地域関係者の双方を対象とした教育研究プログラムを開発し、小中学生～社会人までの様々なターゲットに対して適用（実施）する。



川俣町・近畿大学の連携による復興関連活動の進展

これまでの成果

1 人材育成目標の設定

川俣町関係者との連携体制の構築、人材育成目標の設定を行っている。

2 教育研究プログラムの開発・実施

座学、演習、フィールドワーク、共同研究、商品開発等の形態で実施している。

重点分野A：農業・食関連

かわまたジェラート・かわまたバーガーの商品開発、農業インターンシップの実施、熱帯果樹や薬用植物等の試験栽培 等

重点分野B：原子力・除染・リスクコミュニケーション関連

野生キノコの採取、放射線測定 等

重点分野C：観光関連

フードツーリズムの開発（キムジャン文化の再現）、コーヒーフェスティバルの開催、染織ゼミ作品展の開催 等

重点分野D：集落復興・コミュニティ再生関連

サイクルツーリズムの充実、サイクルロゲイング大会の開催、インターンシップの実施、体験プログラム事業の計画検討 等

重点分野E：SDGs関連

SDGs探究授業用のデジタル教材の作成、授業の実施 等

その他

大学・地域連携学講座（役場職員との勉強会）の開催、川俣町×近畿大学 復興連携フェスタの開催、町広報誌でのPR、町民向けアンケート調査の実施 等



「かわまたジェラート」の商品開発



野生キノコの採取



フードツーリズムの開発
(韓国料理ワークショップ)



サイクルロゲイング大会の開催



SDGs探究授業用のデジタル教材の作成



川俣町×近畿大学 復興連携フェスタの開催

事業終了時点の成果及びその後の見通し

【事業終了時点の成果】

- “オール近大”という学部を超えた全学的な取り組みを行うことにより、**福島イノベーション・コースト構想の実現に寄与する多種多様な人材育成の基盤の形成や教育研究プログラムの開発の進展**が期待される。また、西日本を拠点とする近畿大学が様々な関係者を巻き込みながら積極的に活動を展開することで、**震災の風化が懸念される中、“オールジャパン”での復興活動の進展への貢献**が期待される。

【その後の見通し】

- 川俣町と近畿大学は包括連携協定を締結しており、本事業の終了後（2026年度以降）においても、「“オール近大”川俣町復興支援プロジェクト（近畿大学の自主事業）」の予算の一部を活用し、**引き続き各種の支援・連携活動を実施**していく。
- 2026年度以降の主たる活動としては、**本事業（2021～2025年度）の実施により構築した連携体制、設定した人材育成目標、開発した教育研究プログラムを基盤としたもの**（座学、演習／ワークショップ、フィールドワーク、共同研究、地域関係者らとの共同による商品・サービス開発等）を想定している。
- 財源確保については、自主財源に加え、川俣町関係者と共同開発した商品・メニュー等の売り上げの一部を基金等の形式で活用する、川俣町ふるさと納税の寄付金の一部を活用するといった方法についても関係者と検討を進める。